

憲法を学び いかす方に!!

「みんなとともに学び、考える」を大切に——2017 府職労講座開講



今年の府職労講座は「今ほど憲法が大切なときはない！しっかり身につけて職場から、いかし広げよう」という思いで、全労連や大阪自治労連の呼びかけにもこたえ「勤労者通信大学憲法コース」を活用して行うことにしました。受講登録者は目標の30人を超え32人と

なり、月1回の学習会の開催方法も工夫して、みんなが参加できるように土曜日の午後と平日の夜に開催することにしています。1回目となった12月3日の学習会には、テキストの「はじめに」を学び、そもそも憲法とは、近代憲法の誕生した背景、発展などについて学びました。次回からは、1回に1章のペースで進め、1節ごとに参加者が「報告・説明」する形式で、みんなとともに学び、考えて進めていくことにしていきます。

参加者といっしょに楽しく憲法を学んでいきたい

府職労青年部副部長 加藤 誠大さん

学生時代も憲法について詳しく学習する機会がなかったもので、今回の憲法講座は初めて知ることづくしで非常に勉強になりました。僕は1人で勉強するのは苦手なのですが、講座では多くの方といっしょに勉強するので非常に楽しく学ぶことができました。次回以降も出席し、憲法について勉強し、詳しくなりたいと思います。

歴史を刻み

さらなる飛躍を

吹田市職労70周年

11月23日に吹田市内で開催された記念式典では、900人を超える参加で地域のみなさんとのつながりを深めました。団結を瞳のように大切に、住民のみなさんと思いを共有して歩んできた歴史を振り返りながら、「つなげよう職場のなかまと つなげよう住民とともに歩んだ歴史」という新しい決意を胸に刻むものとなりました。



青年部による演奏は未来への希望を示すものとなりました

守口市職労70周年

守口市職労は、結成当時から賃金差別をなくし、誰もが暮らせる賃金・働きがいを感じる職場づくりをめざして、団結をつくり、たたかいて築いてきました。12月18日に大阪市内で開催された式典では、70年の歴史を活かし、今後も組合員の生活と権利を守ると同時に、住民とともに住民本位の街づくりの実現をめざして奮闘する決意を新たにしました。

憲法施行70年 個人が尊重される世の中に



大阪自治労連執行委員長 荒田 功

憲法施行70年の年明けを迎えました。戦前の政治体制や侵略戦争の反省に立ち、新しい日本の再出発の誓いが日本国憲法に謳われています。

「立憲主義」という言葉が広く浸透しました。その根本は「個人の尊重」です。今年こそ「一人ひとりが大切にされる」世の中になることを望みます。

現在はポピュリズムの時代と言われています。単純明快な論理を振りかざすリーダー、排他的な主張で大衆を扇動する手法。EU離脱を決めた英国の国民投票では、生活に苦しむ低所得者や労働者が離脱に賛成票を投じました。「反移民」「反EU」「反エリート」のスローガンを掲げることで、国民の不満をすくい取る勢力が西欧諸国で存在感を強めています。

ポピュリズムには人々を分断する危険な特徴があります。一握りの人たちに巨万の富がもたらされる一方で、取り残された者との格差は広がっていく深刻な事態が増幅されます。

日本においても「アベノミクス」の恩恵は庶民に滴り落ちず、富裕層と貧困層の二極化に拍車がかかっています。世界も日本も大きな岐路にさしかかっています。

この間、国民のたたかいは広がり、市民と野党の共同が進歩しました。今では安倍政権を包囲し、「安倍一強」と言えない状況を作り出しています。来たる総選挙では暴走をストップさせるために力を合わせましょう。

また、維新の流れを止める野党共闘も重要です。地方自治体を金儲けの手段とし、利益にならないものは全て民間に売り飛ばすやり方は、住民の福祉の向上を図る自治体本来の役割を投げ捨てるものです。

大阪自治労連は憲法と地方自治擁護と発展のために奮闘する決意です。本年もよろしくお祈りします。



署名がたくさん集まった吹田での宣伝



堺市では、新金岡となかもずで宣伝が行われました



応援の力が励みに

吹田市職労 山本 早苗さん

師走の慌ただしい中「がんばってくださいね!」と応援してください方もいて励みになりました。公私ともに職員と保護者が一緒になって「民営化ストップ・民間の水準を引き上げて」の声を上げ行動できたのは、とても力になりました。また乳幼児を連れての保護者の参加に励まされ、未来は明るいとおもしく思えた行動でした。

保育・学童の拡充めざす府民宣伝

力をあわせ 踏み出せば 元気が出る

公的責任が置き去りにされ、公立保育所の民営化の流れは止まっています。また、保育基準の規制緩和がすすめられ、働く保育士の労働条件の改善もままなりません。そこで、12月4日に保育・学童の充実を求める府民宣伝が行われました。そこでは保育部会、学童連絡会

の仲間、民間保育園の仲間や保護者など100人を超える参加者が集まり、「保育・学童をよくしたい」の思いを響かせました。当日には署名もたくさん集まり、共同の力を実感する元気の出る宣伝となりました。

昨年、「保育所落ちた」のブログで現在の保育・学童の状況が社会問題化しました。しかし、私たちの周りの保育園や学童保育を見渡せば、



式典では70年の歴史をスライドなどで振り返りました

今月のキーワード

政治資金収支報告書

日本の政治団体の収入、支出及び保有する資産等について記載した報告書です。政治資金規正法により、原則として毎年3月31日までに、その前年中にあったすべての収入と支出及び保有する資産等について記載した政治資金収支報告書を作成し、総務大臣または都道府県選挙管理委員会に提出することを義務付けられています。2015年度分が11月27日に公表されました。2015年に分裂した維新の党は政党交付金に関わって必要経費を精算したのち国庫に返納することとしていましたが、13億3000万円を受けとり地方組織などに3億5105万円配り、その他もろもろに山分けし、2億円しか返金していないことが明らかになっています。

今月のキーワード

カジノ解禁法

刑法が禁じる賭博を合法化するための悪法です。カジノを中核とする統合型リゾート（IR）を国内に設置すれば、海外から日本を訪れる観光客が増え、にぎわうことで地方の経済が活性化し、税収も増えると「バラ色の未来」を描きます。しかし、カジノは、最も刺激的で、人をのめり込ませる「毒」をもつ賭博場です。反社会的勢力の介入、マネーロンダリング（資金洗浄）の横行、多重債務問題の多発、青少年への悪影響、ギャンブル依存症などもあり、マスコミの世論調査でも国民の多くが反対しています。マスコミ報道では、強行採決は首相官邸がカジノの大阪誘致をめざす日本維新の会とのパイプを重視した結果、とあります。